

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・東京2020オリンピック・パラリンピックが新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった。入国制限等もあり海外チームの事前キャンプは実施できなかったが日本代表キャンプを3市で6件受入れた。事前キャンプ受入に係る協定書の締結は1件であった。
②	・新型コロナウイルス感染症の影響により、学校交流訪問の実施が困難となったが、プロスポーツ3チームの動画を6月～7月にかけて全15回配信することで、コロナ禍においてもスポーツチームとファンとの交流機会やスポーツチームの情報発信の場を創出することができた。 ・タグラグビー教室の実施では、「子どもたちが協力して活動することができた」等の感想が寄せられ、スポーツに親しむ機運の醸成が図られた。
③	・RWC2019で来県したウェールズとの友好交流イベントに際し、徳増ウェールズ特使によるラグビークリニックを開催し、ラグビーを通じた国際交流ができた。また、RWC2019から1周年を記念した報道写真展開催等によりRWC2019の記憶の継承が図られた。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(2年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	国際スポーツ大会誘致推進事業	111.1	358
②	スポーツによる地域の元気づくり事業	105.6	358
	スポーツによる大分魅力創生事業	36.4	359
③	ラグビー国際試合開催支援事業	—	359

【VI. 施策に対する意見・提言】

○第3回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 (R3.2) ・昨年はコロナ禍であったが、7人制ラグビーの日本代表やトップリーグチームの誘致など、15回ほどの合宿があった。手厚いサービスが最大の要因とのことであり、引き続き取り組みをお願いしたい。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
C	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプの受入のため、協定を締結した県内市町村や競技団体と連携し、コロナ禍においても事前キャンプが実施できるよう受入体制を整備する。 ・より多くの県民のスポーツに親しむ機運を醸成するため、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上でプロスポーツチームによる小学校や総合型地域スポーツクラブ、医療施設等への訪問や試合への招待を行う。 ・ラグビーワールドカップ2019大分開催の成果を一過性のものとせず、着実に引き継いでいくことが必要であり、ラグビーの魅力と感動の共有、グローバル人材の育成、海外誘客(インバウンド)の多角化、海外との継続的な交流を推進する。